



道しるべ



令和8年7月16日(木)

文章責任者：進路指導部

夏季三者面談に向けて

7月21日(火)から29日(水)まで(D組のみ23日から31日まで)、夏季三者面談を行います。三者面談のねらいは以下の3点です。

- ①1学期の生活や学習を振り返り、2学期の目標を立てる。
- ②皆さんの学校での様子を保護者の方にも知っていただく。
- ③進路についての現時点の考えを共有し、夏休み以降の具体的な取組の目標を立てる。

生徒の皆さんは以下を参考に、三者面談で、一学期の自分の成長を振り返るとともに、進路に関する希望も自分の言葉で伝えられるようにしてください。

～夏季三者面談の内容～ ※(2)(3)が言えるように準備をしておきましょう！

(1) あいさつ

(2) 1学期の振り返り

キャリア・パスポートをもとに、学習面や生活面、家庭での様子など、自分が頑張ったと感じている部分や課題だと感じている部分を捉え直し、自分の良いところやこれから頑張りたいことを見付けていきます。生徒の皆さん自身が、「4月に立てた目標のうち、学習の目標ではA評価でしたが、学校生活で立てた〇〇〇という目標についてはC評価でした。それは、～～～だからです。2学期は～～～という点を頑張っていきたいです。」等、キャリア・パスポートを見ながら話せるようにしておきましょう。

(3) 進路について、現時点で考えていること

「進路希望調査」に書いたことを、生徒の皆さんが説明してください。まだ具体的な進路先の希望を決められていない人も、「●●な雰囲気の良い学校がいい」「高校では～～について頑張りたい」「〇〇の教科が好き。」「将来……になりたいと思っている」等、自分自身の考えや思いをできるだけ具体的に伝えられるように準備しておきましょう。

(4) 進路について担任と確認

1学期の評価・評定や復習確認テストの結果をもとに、あなたの希望する進路について、具体的な夏休み以降に取り組むべきことを担任の先生と保護者の方と共に確認していきます。「学習面」と「学校見学などの準備面」の両方で具体的なイメージを共有したいです。まだイメージがもてない場合も、その糸口を一緒に探してみましょう。

(5) 保護者の方から

学校での状況や進路への取り組みを聞いた保護者の方から、励ましの言葉、家庭で困っていること、お子さんへの願い、学校への意見や要望などをお話しいたします。

10月と12月にも進路に関する面談があります。そこでは、更に詳細に自分の進路希望について話してもらう予定です。夏休みの間に進路について考えながら、10月の三者面談では以下のような内容が話せるように、準備を進めておきましょう。

～10月の三者面談で言えるように なってほしい内容～

例

第1志望は●立●●高校の普通科を一般受験したいです。

9月の学校説明会に参加したのですが、……というところが気に入りました。

通学時間は電車で片道●分くらいになりそうです。

学力的にはまだ少し難しい状況です。評定は●ポイント必要なので、現時点では足りません。復習確認テストなどの点数も、●点ずつ取りたいです。国語が苦手なので、古典を中心に頑張ります。

第1志望が挑戦になるので、第2志望として私立●●高校の進学コースを、併願優遇制度を使って受験したいです。8月の初めに学校説明会に参加し、個別相談も受けました。

出願の条件は5教科評定で●ポイントです。英検3級で+1ポイントもらえるので、1学期の成績を維持できればクリアできそうです。

ポイント ⚡ 以下のような項目を押さえて準備しよう！

- ・まず第1志望のこと
(都立か私立か国立か／科とコースは／推薦か一般か)等
- ・説明会に行ったか。
- ・なぜその学校に行きたいのか。
- ・通学時間はどうか。
- ・今の学力と照らし合わせてどうか。
- ・どうすれば合格ライン／受験できるラインに達することができるか。
- ・第2志望以降の学校についてもどの科・コースを受験するのか等
- ・私立ならどのような制度を使って受験するのか。
- ・個別相談でどのようなことを言われたか。
- ・1学期の時点で推薦／併願が可能な評定があるのか。

自分自身の進路について、ただ「●●高校に行きたいです」といった内容だけではなく、具体的に上記の内容を自分自身でよく考え、整理しておくことが大切です。夏休みのうちにどのように行動すべきか、少しずつ見えてくるのではないのでしょうか。

- ・進路先について調べること
- ・実際にその進路先に行ってみること(学校見学、説明会への参加)

の2点を意識し、上記のような学校の情報を自分から入手していきましょう！

また、夏休み中に取り組むとよい課題や夏休み明けの小テスト等、連絡のあった教科もあると思います。夏休み明け、すぐに修学旅行、そして、2学期中間テストです。1学期の評価・評定をもとに、学習との向き合い方を見直し、自分の苦手と向き合う夏にしてください。

進路に関する重要なお知らせ

- (1) サレジオ高等専門学校から、指定校推薦枠を一名頂いています（基準あり）。興味のある人は、職員室・3学年の教員まで相談に来てください。
- (2) 大成高校の地元特別枠の基準が昨年度から変更になりました。また、人数にも制限があります。興味のある人は、職員室・3学年の教員まで相談に来てください。

※(1)(2)以外にも、「地域優遇」等を設けている学校もあります。年度により変更されることもあるので、各学校の個別相談や説明会等でご確認ください。

生徒のみなさんへ コラム⑦

一生のうちにできることには限りがある

いよいよ夏休みです。今年の夏休みは38日あります。「夏は受験の天王山」という言葉を聞いたことはありますか？これは、夏が受験における勝負の分かれ目となる重要な時期であることを意味する言葉です。天王山とは本能寺の変の後、明智光秀と豊臣秀吉が戦った場所のことです。秀吉が先に天王山を占拠したことが勝敗の大きな分かれ目となったことから、「勝敗の分かれ目」や「ここ一番の大勝負」を指す比喻として「天王山」という言葉が使われるようになったそうです。

学期中とは異なり、自由に使える時間が増える夏休み。一日10時間勉強する人と、5時間勉強する人では、38日後に190時間もの差が生まれます。時間をどのように使っていくかはあなた次第です。中学3年生の夏休み、どれだけ自分のために時間を使えるのか、ぜひ考えてみてほしいです。私は大学入試で浪人を経験しているので、他の人よりも人生の中で「受験生」という立場であった期間は長めなのでは？と思いますが、特に中学三年生の夏休みは、「人生で一番勉強した」と胸を張って言える程、学習に取り組んだことを強く覚えています。ただやみくもに量をこなせばよいというものではありませんが、取り組んだ事实は、そのまま自分を支えてくれる自信になりました。不安な気持ちがある人ほど、まずは行動に移してみましょう。また、自由に使える時間が多いからこそ、計画的に、自分に必要な学習内容を見極めていく必要もあります。以前の進路だよりでも、時間のある夏休みに苦手な問題に重点的に取り組むとよいです、と書きました。三者面談でも、担任の先生と一緒に、夏休みの学習の取組や進路決定に向けての動きの確認をしていきましょう。

Mrs. GREEN APPLE のボーカル大森元貴さんは、様々な名曲を世に送り届けています。彼は、「一生で書ける曲の数は、決まっていると思っている」と語っていました。だからこそ、500曲なり、1000曲なりの、その限られた曲の一つひとつを、どう書くのか、どこで書くのかをととても大事にしているのだそうです。

右ページに続く→

大森さんにとっての「曲」は、私の仕事に置き換えてみると「授業」になるのかな、と思いを巡らせてみました。教師という仕事をしていますが、一生にできる「授業」の数は決まっています、その一回一回をどう作り上げていくのか、というところを試行錯誤しながら日々を過ごしていくことが、今の自分にできることなのかもしれない……と。

教員になりたての頃、遅くまで翌日の授業作りに苦しんでいた私は、先輩の先生に、「自分のこれからの教員人生の中で、今一番授業をするのが下手だと思う。生徒に申し訳ない。」という相談を聞いてもらったのですが、そのとき、その先生に「いや、そうとは限らないよ。経験を積んでも、人生のライフステージが変わっていくと、今授業作りにかけられる時間をこの先も同じように確保できるとは限らない。だからこそ大切なのは、『熱量』だと思う。今もっている悔しい気持ち、もっと授業を良くしたいと願う気持ちを常にもつことが、教師として大切なんだと思う。時間が足りなくても、大切なことを見失わずにいられるよ。」と言われました。今でも授業作りで悩むこともありますが、この「熱量」を常に持ち合わせていたいなと強く思っています。

これは、授業に限らず、生きていく上で行われる全てのことに通じるのかもしれませんが。生きていくと、日常をこなすのにいっぱいいっぱいになってしまうこともあるのではないのでしょうか。私も、体調や気持ちの面等、うまくいかないなと落ち込むことも多々あります。しかし、だからこそ、「人生の中で、これをやれるのはあとどれだけの時間なのだろう」という視点をもつことも大切なのかもしれません。時間は有限だからこそ、それを自覚することで、自分が大切にしたいものが見えてきたり、大切にしたいと思う気持ちを強くもてたりするのかもしれませんね。

私自身、まだ自分の在り方、生き方について悩むこともあります。まだ若い皆さんが悩むのは当然です。大森元貴さんのような「何者か」にはなれなくとも、今どういう人間で在りたいのか、この先どういう人間になりたいのか、という自分自身の思いを探りながら、日々を一步步歩いていくのが、「生きていく」ということなのかもしれません。限られた時間を大切に。勉強にも計画的に取り組みつつ、自分の中で大切にしたいと感じることや、これからの自分がどう在りたいのかという自分の将来像などを踏まえ、自分自身と向き合う夏にしてください。夏休み中は、日直の先生もいますし、事前に連絡をしてもらえれば、いつでも先生たちに相談をすることができます。あなたの良さを見付け、それを伸ばしていけるといいですね。応援しています。

(進路指導部)